

ウナギの謎に興味津々

27. 7.18 美郷南学園で専門家講話

美郷町の美郷南学園（花宮）

伸利校長、123人）で、ウナギ博士として知られる日本大生物資源科学部の塚本勝巳教授による講話がこのほどあった。同学園の5〜7年生28人が「ウナギ1億年の謎」と題した塚本教授の話に聞き入

った。

同町南郷にあるウナギ研究施設「国際うなぎラボ」の所長も務めている塚本教授が、実験のため同施設を訪れた夕イミングで講話が実現した。塚本教授は、ウナギが世界に19種おり、このうち日本に

宮日

は、ニホンウナギとオオウナギの2種類が分布していることなどを話し「身近な魚だが謎が多い」と紹介。稚魚のシラスウナギは「たくさん捕れていた時代の10分の1ほどになっている。人とウナギの共存を実現するため完全養殖を目指している」と話した。

「ムカシウナギ」の映像も紹介。1億年前に現れたとされるウナギの起源や進化について語ったほか、クイズや絵を描く時間もあり、児童生徒は興味深げに話を聞いたり発言したりしていた。

また、近年パラオの海底洞窟で発見されたウナギの祖先「ウナギの皮膚の構造を教えてもらい驚いた。ラボにも行ってみたい」と話していた。



ウナギの生態や起源に関する塚本教授（左）の話に、真剣に耳を傾ける児童ら